

# 第14章 福島県立図書館

## 第1節 概要

### 1 運営の概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成25年度に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第2次）』（平成25年度～29年度）の4つの方針・9つの行動に基づき読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

また、平成22年3月に策定された「福島県子ども読書活動推進計画（第二次）」（平成22年度～26年度）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んでいる。

### 『福島県立図書館アクションプラン（第2次）』 4つの方針・9つの行動

#### I 東日本大震災等により失われた読書環境、学習環境を取り戻します。

- 1 東日本大震災等の記録を残します。
- 2 支援体制の基盤を整備します。
- 3 読書環境、学習環境の整備を通じて「ふるさと再生」を支援します。

#### II 県民一人ひとりのお役に立てるよう図書館環境を整えます。

- 1 県民が必要とする情報を提供します。
- 2 県民が利用しやすい環境を整備します。
- 3 県民と共に歩む図書館を目指します。

#### III 福島県の子どもの読書活動を推進します。

- 1 「福島県子ども読書活動推進計画（第2次）」に基づき、県立図書館の役割を果たします。

#### IV 「図書館の図書館」として、図書館の振興を図ります。

- 1 図書館・公民館の活動を支援します。
- 2 高等教育機関、文化施設等関係機関との連携を図ります。

## 2 図書館協議会

### (1) 図書館協議会委員名

[任期：平成25年10月21日～平成27年10月20日]

区分	氏名	所属団体等（主な役職名等）
学識経験者	千葉 養伍	福島大学人間発達文化学類 (学類長・教授)
	土田 節子	いわき明星大学人文学部現代社会学科 (准教授)
	鎌田 喜之	株式会社福島民報社 (編集局文化部長)
	加藤 卓哉	福島民友新聞社株式会社 (役員待遇 論説委員長)
	小倉 孝太郎	公募
	加賀美 孝俊	公募
家庭教育	矢吹 貴美	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会
社会教育	山中 淳子	福島県公共図書館協会 (郡山市安積図書館長)
学校教育関係	五輪 美智子	福島県高等学校長協会 (福島県立須賀川桐陽高等学校長)
	田中 淳	福島県中学校長会 (会津若松市立湊中学校長)

(会長) 千葉 養伍 (副会長) 土田 節子

### (2) 会議

平成26年9月12日 於：県立図書館

(議題等)

- ・平成26年度図書館利用実績(4月～7月分)について
- ・東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業実績について
- ・福島県立図書館移転30周年記念事業について
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」の取組状況について

## 第2節 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

### 1 図書館資料の収集

#### (1) 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するための各種参考図書、少子化時代の育児及び子育て支援に役立つ資料、大活字本等のユ

ニバーサルデザインに対応した資料の収集、地域振興及び産業・経済の活性化に役立つ資料の収集・整理に努めた。

## (2) 地域資料の収集

福島県に関する資料の収集に努め、福島県人著作の収集は話題性等を考慮し購入した。非売品等の資料については出版した個人・団体・機関等へ寄贈を依頼し収集した。行政資料についても各自治体・部局へ資料収集の依頼を行った。購入冊数の1,044冊に対して寄贈された冊数は6,000冊を越えた。

重点収集とした当県に関わる震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料に関しては、HP上やチラシ等で寄贈のお願いを掲載し、約2,000冊を収集、地域資料全体の22%に及んだ。継続した収集資料としては歴史の変遷を辿る地形図を購入した。

また、利用に供していなかった資料の整理に努め、堀江繁太郎の画帖や俳諧関係の貴重な資料を提供することができた。

## (3) 地域視聴覚資料の収集

証言集・記録集を中心とした震災関連資料及び合唱・吹奏楽関係の資料を主に収集した。また、地元新聞のCD-ROMなど保存価値の高いものを収集した。

## (4) 児童資料・研究資料の収集

### ア 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、東日本大震災に関する資料や子育て支援に役立つ資料として乳幼児向け絵本の収集に努めた。

また、子どもの読書と科学のコラボ事業のための科学読み物の収集も行った。

### イ 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、震災関連児童資料の研究書や震災時の子どもの読書に関する資料等の収集に努めた。

## (5) 逐次刊行物の収集と整備

新聞では、いわき市内で発行の『日々の新聞』を12月より購入することにした。

雑誌は、資料価値を重視し、専門的かつ高度な調査相談

に対応できる資料を幅広く継続収集した。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

## (6) 市町村支援用資料の収集

移動図書館などの市町村支援資料は、図書館環境から遠方にある過疎・中山間地域の県民サービスに役立つ新刊書を中心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況

(単位：種)

区分	購入	寄贈・他	計
新聞	25	52	77
雑誌	236	754	990
官報等	3	0	3
合計	264	806	1,070

資料受入状況

(単位：冊)

区分	購入	寄贈・他	計
一般資料	4,381	2,814	7,195
地域・行政資料	1,044	7,970	9,014
児童図書	2,143	461	2,604
児童図書研究書	595	49	644
市町村支援資料	604	2,694	3,298
合計	8,767	13,988	22,755

資料受入状況・推移

(単位：冊)

平成24年度	平成25年度	平成26年度
21,185	24,521	22,755

分類（区分）	25年度累計	26年度増加	26年度除籍	利用替え	26年度累計	
一般資料	0 総記	31,124	378	7	1	31,496
	1 哲学	24,934	346	16	2	25,266
	2 歴史	61,831	915	10	20	62,756
	3 社会科学	100,356	1,756	41	13	102,084
	4 自然科学	34,630	586	33	8	35,191
	5 工学・工業	33,291	669	25	22	33,957
	6 産業	26,802	563	12	7	27,360
	7 芸術	38,460	747	38	22	39,191
	8 語学	9,167	111	17	2	9,263
	9 文学	89,571	1,124	15	41	90,721
計	450,166	7,195	214	138	457,285	
地域資料	0 総記	15,009	1,407	1	8	16,423
	1 哲学	2,516	60	2	0	2,574
	2 歴史	33,876	1,144	5	10	35,025
	3 社会科学	57,484	2,349	12	2	59,823
	4 自然科学	8,301	572	2	3	8,874
	5 工学・工業	11,965	920	0	3	12,888
	6 産業	19,619	755	1	2	20,375
	7 芸術	14,573	801	1	8	15,381
	8 語学	795	35	0	1	831
	9 文学	25,463	971	3	26	26,457
計	189,601	9,014	27	63	198,651	
児童資料	研究資料	34,113	644	34	19	34,742
	児童図書	102,757	2,604	803	1,122	105,680
	計	136,870	3,248	837	1,141	140,422
逐次刊行物資料	雑誌	143,942	5,271	10	0	149,203
	新聞合本	14,673	217	0	0	14,890
	新聞記事ファイル	3,823	0	0	0	3,823
	計	162,438	5,488	10	0	167,916
特殊文庫	61,753	0	0	0	61,753	
館内用計	1,000,828	24,945	1,088	1,342	1,026,027	
市町村支援計	69,349	3,298	6,081	-1,342	65,224	
合計	1,070,177	28,243	7,169	0	1,091,251	

### 第3節 館内奉仕

開館日は283日、入館者は167,097人、1日平均590人の利用があった。震災の影響で平成23年度に大きく落ち込んだ入館者数だが、昨年度から、震災前（平成22年度）の7割程度に回復してきている。

入館者数

開館日数	283日
入館者数	167,097人
（1日平均）	590人

入館者数・推移

（単位：人）

平成24年度	平成25年度	平成26年度
169,623	174,911	167,097

### 1 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常の生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答している。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けており、件数は順調に伸びている。また、当館のホームページアクセス件数については、「蔵書検索」や県内の図書館の所蔵資料を検索する「横断検索」、貴重資料の画像を公開している「デジタルライブラリー」の利用が大きく伸びた。

調査相談件数

（単位：件）

	一般・地域・逐刊	児童資料	小計
口頭	8,236	2,223	10,459
電話	1,405	64	1,469
文書	26	3	29
FAX	52	1	53
電子メール	119	4	123
合計	9,838	2,295	12,133

調査相談件数・推移

(単位：件)

平成24年度	平成25年度	平成26年度
8,232	11,585	12,133

ホームページアクセス件数

(単位：件)

区 分	平成24年度	平成25年度	平成26年度
ト ッ プ ペ ー ジ	132,462	130,593	135,196
蔵 書 検 索	247,363	312,662	433,057
横 断 検 索	223,701	322,396	237,057
デジタルライブラリー	5,449	6,410	5,069
こどものへや	4,416	3,842	4,052
県内図書館(業務用)	16,777	15,717	13,408

## 2 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン(第2次)」を踏まえ、図書館資料の提供や各種講座の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

時事展示として「シェイクスピアを読み直す～生誕450周年～」 「世界結晶年2014～その神秘と美しさ～」 「スポーツのすすめ～心地よい汗をかいてみませんか?～」 「新生活に向けて～備えて不安を解消しよう～」 など、ミニ展示として「知る、考える憲法」「本で満喫・サッカーの醍醐味」「第一次世界大戦100年～第一次世界大戦と大正期の日本～」 「夜空を愛でる」「火山と私たちの暮らし」「イスラムを知る」、県立美術館の企画展にあわせた「仏像の魅力」など、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。

また、パスファインダー「本の森への道しるべ」を作成し、有効的な情報の提供に努めた。

さらに、7月4日より国立国会図書館提供の図書館向けデジタル化資料送信サービスの供用(閲覧・複写)を開始した。それに伴う設備の見直しや、複写要綱等を改正し当館契約データベースの資料複写サービスをも開始した。

## 3 館外個人貸出

登録者数は14,595人、貸出冊数は141,191冊、のべ人数は39,591人で、昨年度より増加した。

資料宅配サービス(有料)の利用は42件、冊数は265冊で、こちらも利用が減少した。

館外個人貸出状況

分 類	冊数	構成比(%)	分 類	冊数	構成比(%)
総 記	1,901	1.3	語 学	1,366	1.0
哲学・宗教	4,639	3.3	文 学	21,094	14.9
歴史・地理	7,636	5.4	地域資料	7,288	5.2
社会科学	12,469	8.8	雑 誌	8,860	6.3
自然科学	7,748	5.5	小 計	92,771	65.7
工学・工業	7,186	5.1	児 童	48,420	34.3
産 業	3,633	2.6	合 計	141,191	100.0
芸 術	8,951	6.3			

館外個人貸出状況・推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
冊 数	134,867	130,545	141,191
の べ 人 数	37,180	36,274	39,591

館外個人貸出登録者数(登録有効期間3年) (単位：人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合 計
新 規	3,248	3,285	3,577	10,110
更 新 者	1,773	1,452	1,260	4,485
合 計	5,021	4,737	4,837	14,595

館外個人貸出登録者数・推移

(単位：人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	14,038	12,773	14,595

## 4 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸 出 先	件 数	冊 数
官 公 庁 関 係	12	488
図 書 館 そ の 他	51	247
会 社 ・ 事 業 所	14	285
報 道 関 係	1	1
学 校	23	113
計	101	1,134

特別貸出状況・推移

(単位：冊)

平成24年度	平成25年度	平成26年度
647	586	1,134

## 5 地域資料

地域資料については、県内外の個人・団体・公的機関等から多種多様な調査相談が寄せられていることから、迅速な対応を心がけつつ、的確な回答を導き出せるよう資料の整理・調査に取り組んだ。

移転30周年を記念した事業を積極的に企画し、情報発信を行った。「図書館の至宝」展及び「ふくしまを知る連続講座」に、所蔵する貴重な資料を公開し、併せて関連資料のミニ展示やパスファインダー「本の森への道しるべ」を3本作成し、資料の紹介に努めた。

館外貸出は歴史地理部門が多く、地域資料の貸出冊数の38%を占め、逆に東日本大震災関連資料は編纂・出版も落ち着き、地域資料の貸出冊数の18%であった。貸出冊数全体は震

災前平成22年度並であった。

貴重資料のデジタル化は規模は縮小になったが、平成8年度より継続して実施している。

## 6 逐次刊行物

東日本大震災・原発事故から4年が経過し、復興を記録する『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を平成26年9月11日現在までに更新し、ホームページに掲載した。

ボランティアの協力により作成した『地元紙記事見出し一覧』（『福島民報』縮刷版 1976(昭和51)年-2002(平成14)年7月の県内政治の記事見出し)を平成27年3月にホームページに掲載した。

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存館、現行受入新聞一覧』について、避難している大熊町、富岡町、双葉町、浪江町の4町以外から回答を得て発行した。

ミニ展示・軽読書コーナー展示については、「お江戸百花繚乱」「日本の神社仏閣」など話題性や季節に配慮し行った。

## 7 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

### (1) こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」では、読書活動関係者に対して情報提供を行った。

### (2) おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」(毎月第2木曜日)や児童を対象に以下の「おはなしかい」を開催した。

・「美術館でおはなしかい」(5月3日、17日、24日)

福島県立美術館展示「ちひろ美術館コレクション 世界を巡る絵本の旅」共催で、美術館展示室において展示作品を原画とする絵本のおはなしかいを行った。

・「移転30周年記念「30歳になった絵本」のおはなしかい」(7月26日)

・「あーとなおはなしかい「人と形」」(12月21日)

美術館との共催事業

・「ふゆからはるへのおはなしかい」(平成27年2月28日) 赤ちゃん向けと4歳以上の2回開催した。

### (3) 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

### (4) 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌『LITTLE BIG』や児童サービス関連情報誌『児童図書研究ニュース』を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

### (5) 「子育て支援コーナー」の運営

子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。

## (6) 子ども読書と科学のコラボ事業

・「サイエンス屋台村 in 須賀川」(11月23日) ムシテックワールドにて「子どもの科学の本の展示」を行った。

## 8 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度より「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し、利用に供している。所蔵数は、平成27年3月11日現在で7,954タイトルとなっており、一覧リストを作成しHPにアップすると共に関係機関へ配布した。また、資料紹介として「ブックガイド」を刊行し利用促進を図った。

さらに、「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し活用を図っている。今年度は、二本松青年海外協力隊訓練所図書資料室において出張展示(平成27年1月26日~2月27日)が開催された。

## 9 複写サービス

コイン式コピー機は1台、レーザープリンター1台、カラープリンター1台、マイクロプリンター2台での対応となっている。資料媒体を変化させて保存することから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

区分	件数	枚数
自・他館処理	4,932	55,808

複写利用状況・推移

(単位:枚)

平成24年度	平成25年度	平成26年度
72,293	59,778	55,808

## 10 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を一般用に6台、こどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図っている。利用は伸びている。今年度も、当館職員による「はじめてのインターネット使い方講座」を実施し、インターネット利用の啓発を図った。

インターネット利用状況

区分	人数
一般	6,707
児童	83
合計	6,790

インターネット利用状況・推移

(単位:人)

平成24年度	平成25年度	平成26年度
5,684	5,699	6,790

## 1 1 展示

### (1) 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

ア 「昭和をかたる雑誌展」(6月6日～8月6日)  
昭和という時代は技術の進歩が目覚ましく、また、時代とともに情報の捉え方も変化している。当館所蔵の雑誌より、戦前・戦中・戦後の昭和という時代を知る機会とした。

雑誌に関する理解と認識を深め、図書館資料としての雑誌の利活用促進を図ることを目的とした。

イ 「まほろん移動展「発掘された大堀相馬焼」  
(8月8日～9月27日)

公益財団法人福島県文化振興財団との共催事業として、平成26年4月26日(土)から平成26年6月29日(日)にかけて福島県文化財センター白河館で開催したふくしま復興展「発掘された大堀相馬焼」の移動展を行った。より多くの県民に被災地の伝統文化を理解いただくとともに、文化財保護の大切さを伝えることを目的とし、出土品や年表などを展示した。

併せて、福島県文化財センター白河館主任学芸員の山田英明氏による講座「大堀相馬焼の歴史と伝統」(第4回「ふくしまを知る連続講座」)を実施した。

ウ 「「福島の文学」展」(10月3日～12月3日)

福島県を舞台とした小説・随筆・紀行文や福島県出身の作家が書いた作品を紹介。文学を通して、福島県の歴史や風土、文化を再発見できる資料を展示した。

併せて、福島学院大学非常勤講師 菅野俊之氏による「福島文学散歩～知られざる名作を求めて～」(第4回「ふくしまを知る連続講座」)を実施した。

エ 「教科書の変遷」(12月5日～平成27年3月4日)

当館で所蔵する、明治期初期以降から現在までの教科書を展示した。

その変遷を追い、日本の近代教育の姿やその時代の子どもたちの様子を伺い知ることのできる貴重な資料でもある教科書の魅力について紹介した。

オ 「東日本大震災等パネル展」

(平成27年3月6日～4月1日)

東日本大震災から4年目となる3月にあわせて、震災を伝える写真パネルを文化スポーツ局の協力を得て展示し、併せて「福島県東日本大震災復興ライブラリー」の中から、福島県の震災を伝える資料を展示した。

### (2) 「図書館の至宝」展(移転30周年記念事業)

当館が森合へ移転して30年を記念し、当館所蔵の貴重書を展示公開した。展示ケースは美術館の協力を得た。

ア 「新聞でたどる福島県立図書館のあゆみ」

(4月4日～4月30日)

イ 「錦絵に描かれた福島」(5月2日～6月4日)

ウ 「装丁の妙 ～みちのく豆本の世界～」

(6月6日～7月2日)

エ 「磐梯山噴火」(7月4日～8月6日)

オ 「名著復刻日本児童文学館」(8月8日～9月3日)

カ 「堀江繁太郎展」(9月5日～9月27日)

キ 「オーピーコレクション『復刻マザーグースの世界』  
(10月3日～11月5日)

ク 「集古十種展」(11月7日～12月3日)

ケ 「日清戦史 草案集 ～佐藤文庫より～」

(12月5日～12月27日)

コ 「会津三方道路」(平成27年1月6日～2月11日)

サ 「福島県史跡名勝の『鳥瞰図』」(2月21日～4月1日)

### (3) ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県民に作品発表の場を提供した。

ア 「細字書道の会」(4月4日～4月30日)

イ 「親子展」(5月2日～6月4日)

ウ 「「ROCK IN RED」展」(6月6日～7月2日)

エ 「「磐梯山噴火」に関連する写真展」  
(7月4日～8月6日)

オ 「「第3回えがく会 油絵作品」展」  
(8月8日～9月3日)

カ 「「まなべゆきお油絵作品」展」(9月5日～9月27日)

キ 「第6回網代澄亭と一門による刻字展」  
(10月3日～11月5日)

ク 「MEMORABLE 2011. 3. 11(記憶すべき2011. 3. 11)  
展」(11月7日～12月3日)

ケ 「ガラス絵展」(12月5日～12月27日)

コ 「「高木健治パステル画」展」  
(平成27年1月6日～2月11日)

サ 「絵画作品展 ～jkデザイン・絵画入門講座より～」  
(2月21日～4月1日)

### (4) 『特別華展「梶井宮御流福島支部特別華道展」』(移転30周年記念事業)

当館が森合へ移転して30年を記念し、地域の生涯学習発展に寄与する図書館として、特別華道展を開催した。

期間 7月23日～7月27日

場所 エントランスホール

## 1 2 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

### (1) 文化講演会

ア テーマ「地域の文化振興に求められる図書館の役割」

イ 期 日 平成26年10月25日

ウ 会 場 県立図書館

エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 100名

オ 講師 学習院大学教授（福島県立博物館長）  
赤坂 憲雄 氏

## (2) 福島を知るための連続講座

第1回「1888年の磐梯山噴火」平成26年7月6日

講師 磐梯山噴火記念館 佐藤 公 氏  
参加者41名

第2回「大堀相馬焼の歴史と伝統」平成26年8月31日

講師 福島県文化財センター白河館 山田英明 氏  
参加者35名

第3回「アートクラブと堀江繁太郎」平成26年9月14日

講師 福島県立美術館 堀 宜雄 氏  
参加者45名

第4回「福島文学散歩」平成26年10月26日

講師 福島学院大学 菅野 俊之 氏  
参加者43名

第5回「松平定信と集古十種」平成26年11月16日

講師 福島県立博物館 小林めぐみ 氏  
参加者42名

第6回「御嶽山と吾妻山」平成26年12月14日

講師 磐梯山噴火記念館 佐藤 公 氏  
参加者116名

「吾妻山を知ろう」こどもの部 参加者15名

## (3) 図書館探検（移転30周年記念事業）

一般向け（高校生以上を対象）と児童向け（4歳～中学生の子どもとその保護者を対象）に、バックヤードを含めた館内見学及び利用案内を行った。

## 第4節 館外奉仕

### 1 移動図書館「あづま号」

以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計25,589冊の資料を貸出した。

#### (1) 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。18自治体に巡回し、延べ20,898冊の資料を貸出した。

#### (2) 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な6自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

該当自治体が設置する、仮設校及び仮設住宅等を巡回対象とし、仮設校に対しては、楢葉町・大熊町・葛尾村・飯館村の4自治体の幼稚園、小・中学校を延べ12回巡回し、2,494冊の貸出しを行った。その他、葛尾村の仮設住宅及び川内村公民館、浪江町の仮設図書館に対し、1,203冊を貸出した。

### (3) 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、西郷養護学校と富岡養護学校の2校を巡回し、延べ3,697冊の資料を貸出した。

### (4) 文化施設連携事業

県内文化施設間の連携を図ることを目的に、福島県文化財センター白河館の事業に2回参加し、移動図書館を県民に開放するとともに、延べ80冊の資料を貸出した。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移（単位：冊数）

平成24年度	平成25年度	平成26年度
25,789	23,376	25,589

## 2 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

26年度の利用状況は次のとおりである。

本宮市教育委員会	2,026冊
喜多方市教育委員会	440冊
相馬市教育委員会	1,300冊
川俣町教育委員会	592冊
只見町教育委員会	560冊
平田村教育委員会	655冊
西会津町教育委員会	240冊
合 計	5,813冊

## 3 福島県立図書館資料の譲与

資料の再活用が充分見込まれる図書館や公民館等に対して、福島県立図書館の資料を譲与し、蔵書の充実を支援した。

26年度の利用状況は次のとおりである。

相馬市教育委員会	200冊
福島刑務所	200冊
本宮市教育委員会	1,049冊
合 計	1,449冊

## 4 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書資料の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境を支援するものであるが、26年度での利用は無かった。

## 5 学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校および特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、118テーマ（延べ277セット）を編成し貸出しを行った。

26年度の利用状況は、23団体に対し118セット(5,063冊)を貸出した。

## 6 広報資料の発行

### (1) 館報「あづま」

新館移転30周年記念号として、平成26年7月22日に発行した。

### (2) 平成26年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から、県内公共図書館・公民館図書室の実態調査を実施し報告書にまとめている。その結果は、県内市町村教育委員会、図書館、公民館等にデータの提供を行うとともに、県立図書館ホームページに掲載した。

主な調査結果であるが、平成26年4月1日現在、市町村図書館と公民館図書室の合計蔵書冊数は6,008,001冊で、県民1人当たり3.23冊(前年度3.1冊)、年間増加冊数は27,279冊である。

また、平成25年度中の貸出図書冊数は、6,689,003冊(県民1人当たり3.59冊)であり、前年度と比べると総冊数では、184,298冊の増である。

### (3) 福島県郷土資料情報

第55号を発行。移転30周年記念事業「図書館の至宝」展で公開した資料の紹介及び市町村広報誌特集記事に見る東日本大震災(相双・いわき地区)に加え、連載記事として福島の児童文学者・福島県関係書誌の紹介をまとめた。

今年度から発行部数は減らし、HP上からの発信に切り替えた。(発行部数100部)

## 第5節 図書館協力

### 1 相互協力と遠隔地返却

相互貸借冊数は増加した。

遠隔地返却冊数については減少した。

相互貸借状況

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	1,057	5,523	507	808	1,564	6,331
借用	120	169	109	152	229	321
小計	1,177	5,692	616	960	1,793	6,652

相互貸借状況・推移

(単位：冊)

平成24年度	平成25年度	平成26年度
5,902	5,981	6,652

遠隔地返却冊数・推移(利用者が来館し、直接貸出しを受けた)

資料を県内公立図書館に返却した冊数)

(単位：冊)

平成24年度	平成25年度	平成26年度
6,407	5,788	6,205

## 2 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

### (1) 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

ア テーマ 「図書館サービスに求められるもの」

イ 期 日 平成26年5月30日

ウ 会 場 県立図書館

エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 86名

オ 講 師 いわき市立いわき総合図書館副館長 三瓶 真二 氏

### (2) 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

(移転30周年記念文化講演会)

ア テーマ 「図書館があるということ」

イ 期 日 平成26年7月24日

ウ 会 場 県立図書館

エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 200名

オ 講 師 国立国会図書館長 大滝 則忠 氏

## 3 第65回北本図書館大会

(第12回福島県図書館研究集会)

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な業務研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に実施している。

ア テーマ

「図書館の底力 ～今のために・未来のために～」

イ 期 日 平成26年6月19日～20日

ウ 会 場 県立図書館

エ 参加者 北日本地区図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 165名

オ 内 容

・シンポジウム①「図書館が持つ力 ～今が生み出す図書館の未来～」

講話 調布市立図書館 小池 信彦 氏

事例報告 東松島市図書館 加藤 孔敬 氏

新地町図書館 目黒美千代 氏

司会 小野町ふるさと文化の館 籠田まき子 氏

・シンポジウム②「学校図書館が変わる～公共図書館との連携で目指す未来～」

情勢報告 全国SLA理事長 森田 盛行 氏

事例報告 秋田県立図書館 青谷 忍 氏

山形県立図書館 阿部早百合 氏

司会 東北福祉大学 高梨 富佐 氏  
・情勢報告 日本図書館協会理事長 森 茜 氏

おはなしかいグループセッションの会

#### 4 平成26年度 図書館地区別（北日本）研修

図書館法第7条の規定に基づき、図書館における中堅の司書としての力量を高めることを目的として実施した。

ア 期 日 平成26年11月18日～21日  
イ 会 場 県立図書館  
ウ 参加者 図書館法第2条に規定する図書館に勤務する司書で、勤務経験が概ね3年以上の者若しくは研修テーマに関連する業務に従事している者。上記と同等の職務を行うと福島県教育委員会が認めた者。

##### エ 内 容

- ・11月18日  
講義① 「図書館が創る未来」  
講師 大阪教育大学名誉教授 塩見 昇氏
- ・11月19日  
講義② 「図書館の可能性を広げる」  
講師 青山学院大学教授 小田光宏氏  
グループワーク「現状を捉えて考える、これからの図書館サービス」  
講師 青山学院大学教授 小田光宏氏
- ・11月20日  
講義③ 「子どもの本を選ぶということ」  
講師 元東京都立図書館職員 杉山きく子氏  
講義④ 「これからの障害者サービスを考える」  
講師 埼玉県立久喜図書館 佐藤聖一氏  
講義⑤ 「高齢者サービスを始めよう」  
講師 墨田区立ひきふね図書館 山内 薫氏
- ・11月21日  
講義⑥ 「図書館は市民とともに歩む」  
講師 児童文学者・絵本作家（元静岡市の図書館をよくする会会長）草谷桂子氏

#### 5 子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

震災で被災して心が傷ついている子どもたちや親たちが、本とのふれあいを通して心を癒やすことを目的に、読み聞かせなどを行うフェスティバルを、本年度より開催している。

##### (1) 「絵本はともだち」

ア 期 日 平成26年5月11日  
イ 会 場 県立図書館  
ウ 参加者 子どもと保護者・保育従事者・読書ボランティア・その他関係者等 723名  
エ 内 容  
・講演 「絵本は育児書」  
幼児教育専門家 藤田 浩子 氏  
・おはなしかい等  
実演者 語り部たちの会みやぎ 竹丸 富子 氏

##### (2) 「本はともだち」

ア 期 日 平成26年11月29日  
イ 会 場 ビッグパレット  
ウ 参加者 子どもと保護者・保育従事者・読書ボランティア・その他関係者等 100名  
エ 内 容  
・講演 「子どもたちにお話しを！ ～読書の喜びを生きる力へ～」  
語り手たちの会 尾松 純子 氏  
・おはなしかい等  
実演者 郡山子どもの本をひろめる会

#### 5 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を維持するため、「福島県内大学図書館間相互利用制度」を定め、県立図書館は公共図書館唯一の加盟館となっている。その他、県内20の市町村立図書館が参加館として協力体制に参加している。

参加している市町村立図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらすあ夢図書館である。

また、福島大学附属図書館、及び、福島県立医科大学附属学術情報センター図書館との間では、相互協力に関する「ふくふくネット」の協定を締結し、それに基づき資料の相互返却等を行った。

